

令和6年度第3回霞ヶ浦自然観察会実施結果

日 時：令和6年7月20日（土） 8時30分～15時

テーマ：南限のハマナスと海辺の植物を観察しよう

場 所：鹿嶋市大小志崎海岸及び鹿島神宮

案 内：小幡和男（茨城県霞ヶ浦環境科学センター）

内 容：霞ヶ浦の水は利根川を経て太平洋に注ぎます。その海岸である鹿島灘沿岸は、砂浜海岸が100kmにわたって広がり、いろいろな海浜植物が生育しています。そして、美しい花を咲かせる北方系の植物ハマナスの南限地が鹿嶋市大小志崎にあり、国の天然記念物に指定されています。この観察会では、南限のハマナスと海辺の植物を観察し、霞ヶ浦湖岸の植物や内陸の植物などとどんな違いがあるかを発見します。

また、午後には県の天然記念物に指定されている鹿島神宮の樹叢を観察し、鹿島神宮の歴史と神宮の森の成り立ちについて学びます。

参加者：26名（大人24名、小学生2名）

担当職員：6名

パートナー：9名

結 果：8時30分に霞ヶ浦環境科学センターを出発し、9時40分に鹿嶋市大小志崎海岸に到着しました。まず、砂浜の植物を観察し、次にハマナス群落を観察しました。当日は梅雨が明けて猛暑になった最初の日で、海岸では30℃を超えていました。残念ながらハマナスや海浜植物の多くは花の季節を終えていましたが、ハマニガナやスカシユリなど、きれいな花を観察することができました。11時に観察を終え、潮騒はまなす公園に移動して昼食をとりました。

午後は、12時30分から約1時間鹿島神宮の樹叢（森）を観察しました。猛暑でも森の中は比較的涼しく快適に観察をすることができました。スタジイやスギの大木の茂った森では、イズセンリョウやホソバカナワラビなど、神宮の森を特徴づける暖地性の植物を観察することができました。

鹿島神宮を 13 時 30 分に出発し、14 時 50 分に環境科学センターに到着しました。往復のバス車中では、元センター職員でパートナーの腰塚先生より、霞ヶ浦（西浦と北浦）とその周辺の自然、産業、歴史について、大変興味深いお話をさせていただきました。腰塚先生ありがとうございました。

暑い日になってしまいましたが、皆さん元気に観察会を終えることができました。皆さん、たいへんお疲れさまでした。

主な観察した植物を次に示します。

《大小志崎海岸で観察した主な砂浜の植物》

海岸の砂浜は、塩水、乾燥、常に動く不安定な砂など、過酷な環境であるが、このような場所に適応した海浜植物が生育している。葉が肉厚になったり、地下部には縦横に長い根茎をもっていたり、特殊な形をしている。観察した主な植物を下にあげる。

オニハマダイコン・・・最近茨城の砂浜で増えているアブラナ科の外来植物。小さな白い花と、こけしのような形の果実が特徴。30 年前から徐々に増えだした。

オニシバ・・・シバを少し大柄にしたようなイネ科の植物。葉の先端は尖り、さわると痛い。

コウボウムギ・・・ムギの名前がついているがカヤツリグサ科スゲ属の植物。海浜の優占種。雌雄別株で、穂がついているのは雌株。この穂を弘法大師の筆にたとえたのが名前の由来。

コマツヨイグサ・・・外来種であるが古くから各地の砂浜でふつうに見られるアカバナ科の植物。内陸でも道端や空き地にも見られるので、なじみ深い植物である。

スナビキソウ・・・白いきれいな花が咲くムラサキ科の植物。地中に根を深くはる。茨城では最近減少しており、絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。

ツルナ・・・海浜に生えるハマミズナ科の多肉植物。野菜としておいしく食べられる。

テンキグサ・・・イネ科の大柄な植物。葉の色が独特な淡青色をしている。ニンニクを連想させるのでハマニンニクの名をもつ。

ハマエンドウ・・・海浜に生えるマメ科の植物。スイートピーの仲間できれいな青紫色の花を咲かせ、エンドウ豆に似た果実をつける。葉はやや肉厚であるである。

ハマスゲ・・・カヤツリグサ科カヤツリグサ属の植物。内陸でも道端や畑の雑草としてふつ

うに見られなじみ深い植物である。

ハマニガナ・・・きれいな黄色い花を咲かせるキク科の植物。海岸線に近い最前線に生える。地下茎は横に長く這う。葉がイチョウの葉を連想させるので、ハマイチョウの別名をもつ。

ハマヒルガオ・・・ハマニガナとともに海浜の最前線に生えるヒルガオ科の植物。アサガオに似た果実をつけていた。地下茎はハマニガナに似て砂浜の深いところを横に這って増える。

ハマボウフウ・・・刺身のつまに使われるセリ科の植物。薬草としても使われる。直根が地中に深く伸びる。最近では減少傾向にあり、茨城では準絶滅危惧種に指定されている。

《やや内陸のハマナス群落周辺で観察した主な植物》

ハマナス群落は、海岸線に近い海浜植物群落よりやや内陸にある。ハマナス群落とともに生育する主な植物を以下に示す。

ハマナス・・・海岸などの生える寒地性のバラ科植物で、茨城県を南限とする。大小志崎海岸のハマナス群落は大正 11 年（1922 年）に国の天然記念物に指定された。

マルバアキグミ・・・アキグミの海岸型の変種。特殊な鱗状毛に覆われた葉は銀色に見える。

マサキ・・・生垣に利用される低木であるが、本来の生育地は海岸付近である。ニシキギ科。

シャリンバイ・・・公園や庭園などによく植えられる低木であるが、マサキと同じように本来の生育地は海岸である。バラ科。

スカシユリ・・・海岸の砂浜に生えるユリ科の植物。オレンジ色の 6 枚の花びらの間に隙間があるのでスカシユリと名付けられた。

ワセオバナ・・・海岸に生える大型のイネ科植物。サトウキビの仲間で、根元付近の茎をかじると甘い味がする。

《鹿島神宮で観察した主な植物》

鹿島神宮の樹叢（じゅそう、森のこと）は、昭和 38 年（1963 年）に県の天然記念物に指定された。スダジイやタブノキからなる照葉樹林。林床には暖地性の多くの植物が生育し、茨城県を代表する自然となっている。

スダジイ・・・日本の平地の原生林を代表するブナ科の樹木。常緑広葉樹で葉の表面が照っているので照葉樹ともいう。

モミ・・・平地から標高の低い山地の森林に生えるマツ科の常緑針葉樹。

スギ・・・鹿島神宮を含め、どこの社寺林にもスギは多いが、関東地方にはスギは自然分布しないので、起源は植えたものである。ヒノキ科。

サカキ、ヒサカキ・・・サカキとヒサカキはともによく似た常緑低木。サカキの方が葉はやや大きく、葉の縁に鋸歯がない。両種とも神事に使う木。サカキ科。

アリドオシ・・・アカネ科の常緑低木。地面を這うように生える背丈の低い植物。鋭いとげをもっている。センリョウ、マンリョウとともに縁起のいい植物として正月飾りに使う。

コ克蘭・・・スダジイ林の林床などに生える野生のラン科植物。

フモトシダ、ホシダ、ベニシダ・・・スダジイ林の林床に生えるシダ植物。鹿島神宮ではこの3種が目立つ。

ミヨウガ、ヤブミヨウガ・・・ミヨウガはショウガ科、ヤブミヨウガはツユクサ科の植物で縁は遠いがよく似ている。さわるとヤブミヨウガの葉はざらつく。今、花が咲いているのはヤブミヨウガ。

イズセンリョウ・・・つる状に枝を伸ばすサクラソウ科の低木。暖地に生える。

ホソバカナワラビ、ヘラシダ・・・鹿島神宮で見られる比較的珍しいシダ植物。暖地性の植物である。

第3回霞ヶ浦自然観察会



鹿嶋市大小志崎海岸で海浜植物の観察を開始



砂浜の優占種コウボウムギを観察する



白い花が咲くスナビキソウを観察



黄色い花の海浜植物ハマニガナ



国の天然記念物・南限のハマナスの観察



ハマナスは花の季節を終え、赤い実がなっていた



県の天然記念物・鹿島神宮の樹叢の観察



暖地性のシダ・ホソバカナワラビの群落を観察